

## 能登に暮らす生き物

能登半島には、希少な植物や昆虫、全国でもごく一部の地域でしかみられない魚類や鳥類など、特徴的な生き物がくらしています。

ここでは、そんな生き物の一例をご紹介します。



神子原の展望台から望む里山の風景

### ●コウノトリ (左: 見られる環境のイメージ)



1971年に国内の野生下で絶滅しましたが、その後、人工飼育されていた個体が放鳥され、国内での繁殖数も増えつつあります。最近では能登でも繁殖が確認されています。

### 里山

### ●シャープゲンゴロウモドキ



種の保存法により保護されている希少なゲンゴロウのなかま。昆虫や小魚、小型のサンショウウオ幼生などを捕食します。湧水があり水質汚染や人工護岸がない水辺に生息しています。

提供: 西原 昇吾氏

### ●カジカ中卵型



日本海へ注ぐ川に生息するカジカのなかま。成長に応じて川と海を行き来するため、生息には川と海のつながりが必要です。

### ●ミナミアカヒレタビラ



富山県より西の日本海側の平地の湖沼や下流河川に生息するタナゴのなかま。本種を含むタナゴのなかまは川底の二枚貝に産卵するため、生息にはインガイ類などの二枚貝が多くすむ環境が欠かせません。

里山と里海をつなぐ川と森

### —国境を越えて移動する渡り鳥—

季節により長い距離を移動する渡り鳥の中には、広い海の上よりも、陸地で休みながら移動したい種類も多く、日本海に突き出た能登半島では、様々な種類の渡り鳥が見られます。



オオヒシクイ(冬鳥)



ダイゼン(旅鳥)

### —本州最後のトキ生息地、能登半島—



提供: 石川県自然環境課

トキは東アジア帯に広く生息していましたが、日本では2003年に絶滅してしまいました。能登半島は本州で最後までトキが生息していた地域で、再びトキが生息できるように環境の整備が進められています。

### ●イカリモンハンミョウ (左: 見られる環境のイメージ)



能登半島、九州の一部の地域でしか見られないハンミョウのなかま。砂の粒子が細かく、海浜植物がみられる長くゆるやかな砂浜が、重要な生息条件です。

### ●ウミドリ



海岸の塩性湿地に生える小さな多年草。夏に白や桃色の花をつけます。能登は分布の南限にあたり、志賀町の天然記念物、石川県指定希少野生動物植物種に指定されています。

### ●ハマドクサ



能登半島、北海道、岩手県でのみ見られるトクサのなかま。能登は分布の南限で、珠洲市の天然記念物に指定されています。

### 里海

# 能登半島の豊かな自然環境



オオアオイトトンボ



ニホンアカガエル



ミズオオバコ



ミサゴ



環境省自然環境局 生物多様性センター  
Biodiversity Center of Japan



〒403-0005  
山梨県富士吉田市剣丸尾5597-1  
Tel: 0555-72-6031  
E-mail: biodic.webmaster@env.go.jp

